

前夜祭

テーマ：アイヌ文化の成立

10月19日（金） 19：00～21：00

「ふれあいセンターびらとり」 視聴覚ホール

開会あいさつ

フィルム上映と解説

「マンローが記録したクマの霊送り」

内田順子 国立歴史民俗博物館・准教授

要旨：スコットランド出身の医師で、考古学・人類学の研究者でもあるニール・ゴードン・マンローは、1930（昭和5）年、二風谷に長期滞在してアイヌ文化の研究に取り組み、イオマンテ（クマの霊送りの儀礼）を映画で撮影しました。マンローが残したフィルムとテキストを再構成し、撮影されたイオマンテのハイライトを上映してご紹介します。

経歴：大学生の頃から沖縄県でフィールドワークを開始。宮古島で、伝統的な行事で歌われる古歌謡の研究に没頭。1999年から国立歴史民俗博物館に勤務。同博物館でマンロー撮影の映画フィルムに出会い、2004年12月に初めて平取町二風谷を訪問。マンローフィルムの調査の成果を映像作品「AINU Creed and Cult—マンローのフィルムから見えてくるもの」（2005年度、制作：内田順子・鈴木由紀、製作協力：東京シネマ新社）として発表。

講演 「考古学からみたアイヌ文化の成立」

森岡健治 二風谷アイヌ文化博物館・館長

要旨：平取町では1983年のユオイチャシ跡から2014年の豊糠8遺跡発掘調査に至るまで、31年間で23遺跡（約56,500㎡）が開発行為に伴う記録保存のための発掘調査として実施されました。その間、アイヌ先住民族の歴史を物語る貴重な資料も数多く発見されていることから、擦文文化からアイヌ文化に至る遺跡を中心に発表したい。

経歴：北海道埋蔵文化財センターを経て、1993年から平取町教育委員会へ。以降、カンカン2遺跡をはじめ沙流川総合開発事業や平取バイパス新設工事、町単独事業などで16遺跡（25,366㎡）の発掘調査に携わる。1998年には二風谷ダム建設工事が契機となり沙流川歴史館が開館。新たに埋蔵文化財の展示公開、普及・啓発業務にも対応し、2016年からは教育委員会文化財課長、沙流川歴史館・二風谷アイヌ文化博物館館長として現在に至る。